

平成30年ジャシド 総会・特別講演会・忘年会の ご案内

開催日：12月 8日(土)

講師：慶應義塾大学医学部 耳鼻咽喉科学 准教授
國弘幸伸（くにひろたかのぶ）先生



『上顎のインプラント治療の合併症～耳鼻咽喉科医の視点～』

会場：ブリーゼプラザ 803+804室

<http://www.breeze-plaza.com/access/>]<http://www.breeze-plaza.com/access/>

タイムスケジュール

14時00分～ 総会

15時00分～ 特別講演会

忘年会 18時～ ブリーゼプラザ 805室

費用

会員：無料

非会員：1万円（会員より紹介のある方）

お申し込みはジャシドHPよりお願いします

<http://www.jacid.jp/>

※忘年会に参加される方は、コメント欄に【忘年会参加】と記入してください

医療行為は常にリスクを伴う。安心安全な医療行為は存在しない。インプラント治療も例外ではない。上顎のインプラント治療による重篤な合併症としては、上顎洞炎が挙げられる。インプラント治療は体内に異物を挿入する治療であるため、感染が生じるとフィクスチャーや骨補填材を一旦除去しなければ上顎洞炎が治癒しないことがある。そればかりではない。筆者が治療を依頼されるインプラント治療後の上顎洞炎症例では炎症が前頭洞にまで及んでいることが多い。炎症が前頭洞にまで波及すると手術の難度は格段に上がる。更に前頭洞から脳膿瘍を併発することもある。つまり生命の危機が生じるのだ。インプラント治療後の上顎洞炎が生じた場合、長期にわたって漫然と抗生物質が投与されている症例があるが、これらの症例では上顎洞、しかも上顎洞の下方しかCT撮影が行われていないことが珍しくない。CT撮影自体が行われていないことすらある。

講演のなかでは、筆者がこれまでに経験した上顎のインプラント治療後の上顎洞炎症例を紹介しながら、インプラント治療後の上顎洞炎の予防と治療についての筆者の私見を述べたい。また、上顎のインプラント治療を行うにあたって留意すべき点についても耳鼻咽喉科医の立場から補足しようと思う。

略歴

1982年 慶應義塾大学医学部卒業
1993年 ドイツ・ミュンヘン大学神経内科客員研究員
2007年 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科准教授
2013年 現在に至る

現在の役職及び所属学会 等
日本耳鼻咽喉科学会 代議員
日本めまい平衡医学会 評議員
日本顔面神経学会 評議員
他